

答申原案について

名張市立病院在り方検討委員会
第6回資料

令和4年11月17日



前回の在り方検討委員会の振り返り

市立病院の医療提供体制及び経営形態についてご意見を頂きました

第5回委員会 委員発言による論点要旨

地方独立行政法人について	<ul style="list-style-type: none">• 可能であれば複数病院を統合して400床以上としたほうが、経営効率がよく医師も集まりやすいが、これまでの経緯や実効性の観点から統合は難しい。そのため、まずは病院の自主性を高めて若い医師にとって魅力のある病院にするために、現状の規模のまま独法化すべきである• スピード感のある体制整備により診療の幅や深さが広がることは、若い医師にとって魅力的である。医師が集まってクオリティやパフォーマンス力が高まることで、他職種のパフォーマンス力も高まるという相乗効果が得られる• 法人理事長の判断で、成果を出した部署に予算をつけたり手当を支給できることで、職員のやる気の向上に繋がる• 法人化されると病院の自主性が高まるが、市の関与が全くなくなるわけではない。また、第三者で構成される評価委員会への実績報告の義務も生じるため、責任の度合いとしては今より重くなる• 行政に医療従事者の増員や医療機器購入の了承をもらうことは無理があるため、その部分は独立採算の方が効率が良く、職員のコスト意識が高まることで支出カットにも必死になる
市からの繰入金について	<ul style="list-style-type: none">• 名張市立病院の医師数や診療単価を見ると、経営改革や職員の努力で一定以上の成果を上げているという評価もできるが、同規模の独法化病院と比較すると繰入金の水準が高い。今後、繰入金の水準を下げることを目指すのか、繰入金の水準はそのままに診療機能を高めて収支を高めることを目指すのか、検討が必要である• 地方独立行政法人においても、地域医療体制に不可欠な救急医療や小児医療といった不採算部門に対する繰入金は必要である• 病院の自主性を高め、不採算以外の部門の収支改善により、結果的に運営費負担金が減少することは期待できる• 市からの繰入金は、病院を利用しない人も含め市民や市内で働く人の税金が投入されている。病院があることで生活の安心や安全が守られているということを、これまで同様に強くアピールしてほしい

市立病院の医療提供体制及び経営形態についてご意見を頂きました

第5回委員会 委員発言による論点要旨

<p>診療科の強化と医師確保について</p>	<ul style="list-style-type: none">• 医療機関を経営していく上で軸となる診療科が必要である。名張市立病院は循環器内科が軸になると考えられるが、それをサポートする他の診療科にも焦点を当てて医師を充足していく必要がある• 開業医の立場からは、急を要する脳神経外科や心臓系の診療をしてもらえるとありがたい• 医師を派遣する大学の立場からは、やはりがん診療が弱いように思う。循環器疾患、脳血管疾患、小児科については、市民の方が思っている以上に恵まれた環境にあるので、がん診療を強化すればバランスが取れるのではないか• 医療機器を継続的に整備して医師が働きたいと思えるような病院になる必要がある。また、働き方改革も非常に重要であり、メディカルスタッフや事務職の強化や、地域医療をどうするかという視点で大学と協議していく必要がある
------------------------	---

答申原案について

別紙)名張市立病院在り方検討委員会 答申書(案)